

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）事後評価結果

| | |
|-------|---|
| 大 学 名 | 広島大学 |
| 整理番号 | 4 |
| 事 業 名 | アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人財教育プログラム |

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

| | |
|---|------------------------------|
| （総括評価） A | 事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。 |
| （コメント） | |
| <p>本プログラムは、アジア地域の現状を踏まえ、そのニーズに応じた食品科学・農学、工学、経済学及び言語・文化の4分野の学生を相手大学との間で相互派遣し、アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人財を育成することを目的に実施されたものである。</p> <p>AIMS プログラムにおける授業科目数などは目標を上回っており、おおむね事業目的を達成したと言える。また、養成しようとするグローバル人材育成のためインプット、アウトプット、アウトカムに関する具体的目標を設定しており、GPAの達成目標については、中間評価時の指摘に伴い引き上げを行った上で目標を上回る水準を達成した。さらに、語学力、発信力、交渉力、異文化理解力及びリーダーシップから成るグローバル・コンピテンシーの向上を測るため、学生による自己評価とともに留学前後にBEVI (Beliefs, Events and Values Inventory) テストを実施することで客観的に留学の成果を評価するなど、独自の取組も実施している点は評価できる。</p> <p>全学的基準に基づくGPAやアジア・太平洋大学交流機構の単位互換制度(UCTS)を活用することで、客観性の高い厳格な成績管理を実施している。単位の相互認定についてもUCTSを活用することで広島大学と相手大学間の等価な単位互換を実現しており、国内外のAIMS参加大学とも情報を共有し、UCTSを活用した単位互換の普及に努めている点も評価できる。さらに、アカデミックカレンダーの相違に関しては、平成27年度に4学期制を導入し、相手大学の単位制度や履修順序への配慮も行うなど、きめ細かな対応が成されている。</p> <p>一方で、派遣・受入学生とともに交流実績が目標数を下回っており、派遣学生数の減少もみられた。このため、プログラムの魅力やアジア地域での長期的な留学意義を検証し、日本人学生の参加拡大に向けた取組を活性化していくことが望まれる。また、部局ごとに成果を把握するなど、出口を見据えた今後の取組が期待される。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質の保証を伴う発展的な事業展開によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことが期待される。</p> | |